

夢を追う

姫路海上保安部巡視艇さぎかぜ 機関士補 濱村乃里子
(奈良文化女子短期大学付属高等学校衛生看護科
〈現 奈良文化高等学校〉 平成13年3月卒業)



1. 進路

中学校時代の私には、大切な夢があり、その夢を叶えるためにはそれなりの専門の訓練を受けなければなりません。そのことを親に話すと「やりたいことは、手に職をつけ、自分で稼いだお金でやりなさい。」と言われました。「手に職をつける」と考えたときに、母が助産師をしていた関係上、看護師という仕事が身近であったため、「まずは看護師になろう！」と思い、早く看護師になるため、准看護師の資格が取得できる高校に行こうと決め、奈良文化女子短期大学付属高等学校衛生看護科を志望しました。中学校の先生には、「高校で将来を決めているのか？」と聞かれましたが、まず看護師になる事が目標だったため、何の迷いもなく入学しました。

2. 看護師時代

高校卒業と同時に知事試験に合格し、准看護師の資格を取得。そのまま付属の奈良文化女子短期大学衛生看護科に進学し2年後、国家試験に合格して看護師免許を取得、大阪の大学病院の手術室の看護師として働くことになりました。

手術室での仕事は、毎日毎日異なる手術に

つくので、手術毎の看護の勉強が大変でした。脳外科、心臓外科、整形外科、外科、眼科、耳鼻科、産婦人科、泌尿器科、小児外科、形成外科、皮膚科等、いろいろな手術につきましました。患者さんとの関わりが手術室に居る間だけだったので「看護師として患者さんに関わっているのか」と悩んだ日々がありました。

3. 夢の変更

看護師として4年間働いている間に、中学校時代目指していた夢への気持ちが薄れ、次第に違う夢を追うようになりました。それが、「海上保安官になりたい！」という夢でした。

友人と海に遊びに行った際に見た、大海原を雄大に航行する海上保安庁の白い船の姿に心を奪われ、「かっこいいなあ。あの船で日本の海を守ってる人がいるんや。」と思うようになり、転職を決めました。

まず、海上保安官になるためには、海上保安学校に入学しなければならないのですが、当時の私の年齢が海上保安学校に入学できるぎりぎりの年齢でした。試験を受けられるのは1回限りで、試験を受けたのですが、現役の高校生達に敵うはずもなく、1次試験で不合格。これで諦められればよかったのですが、なぜか諦めがつかず、どうにかして海上保安

官になれる方法がないのかと模索、船舶の免許の「海技免状」を持っていれば海上保安官になれる方法があることを知りました。

早速、私は海技免状を取得する方法を調べ、4級海技免状を取得できる2年制の学校、国立清水海上技術短期大学校を発見し、社会人入試の枠でその学校を受験しました。なんと合格し、看護師から一変して船舶の免許を取得するための学校に通うことになりました。

4. 海員学校

看護の勉強とはまったく違い、エンジンの勉強、船を操船する勉強等いろいろ覚える事がたくさんありましたが、夢に向かって燃えていた私は、勉強に打ち込みました。

海員学校は寮暮らしで、年齢の離れた年下の同級生と切磋琢磨して過ごしました。また、海員学校という事もあり、男女の比率が看護師の時と正反対で、9割が男子学生でした。

海員学校の2年生になると、4月から9ヶ月間、乗船実習をするため航海訓練所の船に乗りました。船での生活は、最初は船酔いに苦しめられましたが、何とか乗り越える事ができ、日本のいろいろな港に入港し、とても楽しく苦しい乗船実習でした。特に帆船日本丸の乗船実習は、陸も見えない大海原を帆のみで航海するという、ロマンを体験でき、光が一つもない真っ暗な海の上で見る星は、とっても綺麗で、手で星を掴めるのでは、と思うくらい近くで星を感じられました。

無事乗船実習を終え、海員学校卒業と同時に4級航海士と4級機関士の海技免状を取得することが出来、乗船実習中になんと海上保安庁の有資格者の入職試験に合格し、夢の海上保安官になるための切符を取得していました。

5. 海上保安官

看護師を辞めて2年後の7月に、ついに夢の海上保安官として、海上保安学校門司分校の門をくぐりました。6ヶ月間、門司分校で海上保安庁法、刑法、刑事訴訟法といった法律の勉強や捜査のための鑑識の勉強等を終え、その年の12月に念願が叶い海上保安官として現場に着任しました。

初めての勤務地は神戸海上保安部所属の巡視船せつつ機関士補で、ここで降下員の職務と出会いました。降下員とは、ヘリコプターからホイストを使って降下し、岩場など、船では近づけない所に居る遭難者の救助活動を行います。私は、「看護師の知識と経験を生かせば、救助現場での応急処置の幅が広がり、多くの人を助けられるかもしれない」と思い、降下員を希望し、男性職員と一緒にヘリコプターからの降下訓練や船上の搬送訓練等に励みましたが、私が巡視船せつつに乗船している間、降下員が出勤する事案がなく、現場に出勤することはありませんでした。

今、姫路海上保安部所属の巡視艇さぎかぜ機関士補として勤務し、警備業務や救難業務に携わっています。警備業務では、違反をしている船舶を取り締まるため、関係法令の勉強に励み、救難業務においては、現場に船を急行させるため、故障が起こらないよう常に船の整備に励んでいます。

私は常に目標を持って、仕事に励みその目標を達成してきました。途中で「無理かも」と考えることもありましたが、これからも夢を諦めず夢に向かってやっていきたいと思えます。